



兵庫運河の自然を再生するプロジェクト

兵庫運河について

兵庫運河は、神戸市兵庫区にある5つの運河の総称であり、これら5つの運河を併せた水面積は約34haで日本最大級である。

運河は、明治時代につくられ、その周辺は大正から昭和初期にかけて一大商工業地域へと発展した。

しかし、町が発展するにつれ、運河の水質汚濁が進行し、高度成長期には生物の住める環境ではなくなった。また、メタンガスの発生による悪臭被害など社会的問題へと発展した。



組織立ち上げの経緯

現在、運河の水質は、周辺企業の公害対策や下水道の整備等によって回復し、多様な生き物の生息が認められるまでになった。また、地先沿岸で急減したアサリ、阪神間では運河のみで確認されるウミニナ、水産有用種のメバルなどの子どもも見られるようになった。更には、散策道の整備や市民団体の環境学習の場として活用されるなど、市民の憩いの場としての価値も高まっている。

一方、地先沿岸で行う漁業については、これまでの獲る漁業だけでは経営が難しく、環境保全・再生を含めた育てる漁業への転換が求められるようになった。また、地先の漁業や沿岸の現状について地元住民がほとんど理解しておらず、その普及・啓発も大きな課題となっていた。

こうした中、活動組織の主体である漁業者（漁協）において、アサリ資源の再生や、幼稚魚等を育てる浅場環境の再生が兵庫運河を通じて地域住民と協働で実施できないか検討が始まった。



組織の設立と活動の目標

上記の経緯のもと、平成25年度に「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」を結成した。

組織は、漁業者だけでなく、兵庫運河で環境等の取り組みを行う団体や地域住民が参画する体制とした（下表参照）。

プロジェクトの当面の目標は、兵庫運河を通じた①天然アサリ及び潮干がりの復活、②「海のゆりかごづくり」による生物多様性の向上、③市民の地先沿岸や水産業への興味・関心を喚起することである。

| 活動組織の構成 | 所属 |
|------------------|---------------|
| 漁業者・水産研究会・漁協 | 兵庫漁協 |
| 専門家集団・市民団体 | 兵庫・水辺ネットワーク |
| 運河周辺の企業 | 兵庫運河を美しくする会 |
| 市民団体・地元住民・小学校PTA | 兵庫運河真珠貝プロジェクト |
| 地元小学校 | 浜山小学校 |

豊かな里海・ゆりかごの海を目指して

(1) 天然アサリ及び潮干がりの復活を目指して

兵庫運河には、神戸市では貴重となったアサリが生息している。その資源を増やし、失われた潮干がり場をこの運河で復活したい。

そこで、運河で再生産するアサリの稚貝を効率的に捕集し、食害から一定期間保護・育成・放流し、資源量を増やす取り組みを実施している。



(2) 海のゆりかごづくり

運河では、メバルやイカ類の子どもがみられる。藻場などが失われた地先沿岸において、運河は貴重な保育場や産卵場になると考えられる。そこで、試験的であるがアマモの移植や、神戸市の里山樹林管理作業で排出される竹や柴を用いた粗朶沈床の設置を実施している。



(3) 市民の地先沿岸や水産業への興味・関心の喚起

地元小学校3年生やその保護者を対象に、アサリの育成試験と生き物観察会を実施している。育成試験では、干潟で採取したアサリを網袋に入れ、約半年保護・育成し、その成長状態を子どもたち自身で計測する取り組みである。

これら活動を通して、地先の海や生き物の魅力、またその保全の大切さを体感してもらう。



今後の課題と方針

これまでの取り組みによって、運河内ではアサリ資源が増加したり、138種の生き物が確認されるなど生物多様性の向上もうかがえるようになってきた。今後は、さらなる資源増大等を目指し、地先沿岸環境も含めた一体的な里海再生の検討を深めていく必要がある。また、都市部における漁業・漁村の振興を図る上で、新たな収入源として環境学習や観光漁業などを模索したいと考えている。そのためにも、地元住民への理解だけでなく、水産分野以外の行政機関などとのネットワークづくりなど、地域の輪をさらに広げていくことが重要である。